

かもまるくん  
ですっ。



加賀市標章

昨年とは打って変わって雪の少ない暖冬も過ぎゆき、いよいよ別れと出会いの季節が訪れようとしています。

やすらぎ加賀教室も、ここ加賀聖城高校内に移転して通室が便利になったこともあり、新たな通室生を迎えて有意義な一年を送ることができました。改めて、関係の皆様にお礼申し上げます。

不登校で悩んでいる生徒や保護者の皆さんに、是非紹介したい本があります。浅見直輝さんの「居場所がほしいー不登校生だったボクの今ー」です。浅見さん自身の考え方や感じ方、行動力もすごいです。不登校の今を生きている生徒自身や家族の皆さんにとって、大いに共感できて勇気づけられる、そして世界の広がる一冊だと思えます。



加賀聖城高校の庭では、紅白の梅の木が仲良く並んで咲いています。

## 土田先生（心理カウンセラー）の

**来年度最初の相談日** 4月19日金曜日

時間：9:30～11:30

場所：やすらぎ加賀教室



※相談ご希望の方は予約をお願いします。

## 相談状況

	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
2月	2	6	1	9	1
3月	1	5	0	6	1

3月は3月15日現在のデータです

## 最近の教室では・・・

昨年の3月に、ここ加賀聖城高校へ移転してから、少しずつ環境が整えられてきました。

2月には学習室に待望のエアコンが付きました。昨夏は大変でしたが、これで暑い夏も大丈夫！

さらに、学習室の面談用の机も新調され、丸みのある明るい色のものになりました。昨年末に購入したソファと共に、活用したいと思っています。



職員室の会議用の机や椅子も新調されました！



## \*\*\*\*\* 来年度のお知らせ

今まではスーパーバイザーが教室にいらっしゃるのは午前だけでしたが、来年度は午後4時～6時の時間帯にも面談を行えるようにする予定です。詳しくは次回の通信でお伝えします。 \*\*\*\*\*

## 加賀フレンドシップ反省会

**去る2月13日(水)、加賀聖城高校の校長室において、今年度の活動を振り返る反省会を行いました。**

平成17年度より金沢大学原田克巳准教授のお世話で、のべ79名もの学生さんにこの事業に参加してもらい大きな成果を上げています。原田先生から「周囲と途絶しがちな子らの背負うリスクを、色々な人たちが関わってくれることでチャンネルを切らずにつながることの大切さを感じた。」との講評を、また、自分が経験したことがないのでどう接したらよいか、という学生に対しては「想像や疑似体験により理解しようとする姿勢があれば、相手は否定されずに聞いてくれたらと思ってくれる」との助言も頂きました。

以下に、一部の方の活動報告を簡単に紹介します

### Aさん

私は中学校で活動を行い、主に2名の女子生徒と関わって特に感じたことは、話をしている二人とも“学校の先生や友達のことが好き”ということです。別室登校や不登校と聞くと、学校に行くのが苦痛だったり、友達と上手くいってなかったりというイメージがありました。しかし、二人と話をしていると、先生の話、仲の良い友達の話、学校での行事の事などを楽しそうに話してくれました。また、相談室には給食の時間などに友達が遊びに来たりもしていました。廊下を歩く時にクラスの人と会うのを避けようとしている時もあり、教室に入るのにはやはり抵抗があるのだと思います。ですが、相談室でも楽しく学校生活を送ることができている様子を見て、みんなと同じように教室で授業を受けるだけが学校ではないなと感じました。



### Bさん

小学校でMさんとの関わりを通して、子どもの好きなことや得意なことを知る必要性を感じた。Mさんは会話の中で「この学校には自分と同じものを好きな人はいない。」「このカードゲームを極めても将来には役に立たないと思う」ということを話していた。この発言から、Mさんは自分の好きなことはわかってもらえないといった思いがどこかにあるのではないかと感じた。そして、その思いが他の友だちと関わろうとしない理由の一つではないかとも感じた。楽しそうにカードゲームの話をしている様子を見て、学校の内外に関わらず、同じ趣味をもった人と関わる場を設けてあげることで、自己肯定感が高まったり、交友関係を広げるきっかけになるのではないかと感じた。

### Cさん

私は高校で女子Tさんの話し相手として活動させていただいた。活動を通して、私が実際に経験していないことを経験している子を前にしたとき、本当の意味でその子の苦しみは理解できないと思ったが、理解しようとする気持ちが重要であり、その子自身がその時その瞬間感じていることを誰かに話す機会を設けることはとても重要な意味をもつと思った。また、対応の仕方として、肯定的な声掛けや共感、うなずきなど、話しやすい環境づくりをしていくことが大切だと改めて感じた。また、話す中で何かしらアドバイスをしてあげたいという気持ちがあるのと同時に、それがその子にとってはよくないことかもしれないとも感じて、なかなか聞くことから一歩踏み出すことができなかつた部分が個人的に悩んだ。

### Dさん

小6女子Rさんは、初めて会った日から積極的に話しかけてくれる子でした。学習意欲は比較的高く、わからないところは自分から聞いてくれるので、コミュニケーションを取りながら学習を進めることができました。Rさんについて、印象に残っていることが2つあります。



1つ目は、苦手な算数の計算で、口であれこれ説明するよりも実際にやってみてもらった方が子どもにとってはすんなり合点がいくということがよく分かりました。2つ目は、経験したことに関連があると学習意欲が非常に高まり、記憶にも残りやすいということを実感し、生活に結び付いた学習の重要性が分かりました。また小6女子Nさんはあまり外交的ではなく、慣れていない人から話しかけられても、うなずくことで精一杯という様子でした。この活動中に少しでも距離を詰められたらと、なるべくたくさん声をかけるようにしたら、学習時間で横に座った時に、一言だけ初めて私に言葉を発してくれました。たった一言だけでしたがとてもうれしい出来事でした。日頃からのコミュニケーションが子どもとの関係構築にいかに重要か、改めて実感しました。

**ボランティアを受け入れて頂いた学校の先生方、各機関の担当の皆様、ありがとうございました。また、反省会にご参加頂きました皆様、ありがとうございました。来年度も、どうぞよろしくお願いたします。**